

JF職員が見た中国

いまを知ることによって育つ寛容のこころ

丁寧 [ティン・ニン]

ジャパンファウンデーション文化事業部文化企画課

まず理解していただきたいのは、同じ中国人でもいろいろなタイプがいること。「人生いろいろ、中国人もいろいろ」といったところか。

中国の高校を出て来日してからまる7年が経った。昔を振り返ると、故郷は日々新しい変化を遂げてきたように思う。しかし、変化のなかにも変わらないものがある。中国の東北部にある瀋陽市で、特別な日本語教育を受けた自分の経験から日中交流を考えてみたい。

反日デモに参加している人たちだけではなく、日本人との交流に飢えている人もたくさんいること。日本語学習人口だけでも50万人近いという数は、どう考えても、反日デモに参加した人のそれよりはるかに多い。

せっかく日本語を学んでいるのだから、本物の日本人と会話できることは、本人にとってまさに興奮そのものだろう。瀋陽市の中心部には中山広場という場所があり、毛沢東の像を中心とする群像記念碑が広場の真ん中に立っている。平日でも夜になると、その周りを囲んでさまざまな活動を始める人たちが見られる。歌ったり、踊ったり、地面に水で書を書いたり。とてもにぎやかで、瀋陽の一景観でもある。

その一つに「外国語コーナー」があり、英語・日本語を中心に、外国語学習者が集まって外国語で会話をしている。たまに日本人観光客や瀋陽在住日本人がやってくるのもすごい人の塊ができて、みんな競って日本語で話しかけて積極的に交流したがる。

中国語には「害人之心不可有、防人之心不可無」という古くからの表現がある。人を害す心を持つべからず、人を防ぐ「心」を備えよ。文化大革命が中国人の心に残した最大の負の遺産の一側面をも描写している。かつて中国に対して侵略戦争を起こした日本に抱くその「心」は不信任につながっても仕方ない。中国人は大義名分を重んじる傾向がある一方、「変通」(注)がきく一面もある。交流を通じて本当の日本の姿を知れば、変通がきいてくるかもしれない。とくに東北部の人はわりと単純で情に流されやすい。よく、過去を踏まえないと現在はないと言われるが、現在をよく知ることによって過去に対して寛容的になることもあるだろう。そしてくどいようだが、同じ中国人でも考え方は多種多様なのである。

注※変通=柔軟性があって、融通がきく
例：「旧物を墨守して変通を知らず/文明論之概略(福沢諭吉)」